

CLOSE UP

クローズアップ

人間関係を広げる機会を提供することが
私の役割だと思っています

「社会学は出会いとつながりの科学」と語る大山先生は、様々な社会現象がもたらす人の心理への影響を、科学的に解明する研究をされています。「学んだことを身につけて、社会の中での居場所を確立するのに役立ててほしい」と、学生に真摯に向き合いながら、国内外で精力的な研究活動を行っていらっしゃいます。



■ 金城学院大学 人間科学部 心理学科 社会心理学専攻

大山 小夜 准教授

■ 京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学(社会学専修)、文学修士。日本社会学会、関西社会学会、日本社会病理学会、日本犯罪心理学会、東海社会学会所属。東海社会学会では理事を務める。

自由研究が好きで 研究者の道へ

私は子どものころから自由研究が大好きでした。夏休みの課題ではノンフィクションを読んで人物相関図を作ったり、小説に描かれている事象を年代順に並べ変えて年表を作成したりしていました。その頃から「将来は自分が調べたことを誰かに見てもらえる仕事ができたら」と漠然と考えていました。社会学の道を選んだのは、両親の影響でしょうか。両親は学生時代、増田光吉先生(家族社会学)のゼミで出会い、結婚しました。幼心に「社会学を学んだら何かいいことがある」と思ったのかもしれませんがね。

金城学院大学では人間科学部が新設された2002年度より、ご縁があって教鞭をとらせていただいています。生まれてからずっと関西に住んでいたのに、関西弁に違和感をもたれるのではと心配でしたが、そんなことはまったくありませんでした。

現在は「社会調査の設計と技法」「データ解析法」「社会学」「態度変容論」などを教えています。「社会調査の設計と技法」「データ解析法」では主に社会調査のテクニックを、また「社会学」「態度変容論」では具体的な事例や社会現象について社会学や社会心理学の理論を用いて考察します。分かりやすく言うなら、前の2つの授業で料理の仕方を学び、後の2つの授業で実際に料理して食べるという関係です。

授業では自分が見聞きし、感動したことを話すようにしています。そうす

ることで学生たちが、それぞれの事例を身近に感じ、より深く学ぼうとしてくれればと思っています。特に「態度変容論」「社会学」では、人生の転機に人がなぜ、どんな風が変わっていくか、また人間関係がどのように作られるかなどについて講義します。例えば恋愛、ビジネス、病気など誰もが共感できる、身近な事例を取り上げたりします。映画を題材にすることも多いのです。

人間関係を広めるために ここでの学びを役立ててほしい

私はよく「社会学は出会いとつながりの科学」と話します。さまざまな社会現象を研究する社会学は、人間関係を広げるのにとっても役立ちます。数年前から、法律実務家や市民の方たちと共同で学習会や無料法律相談会を運営しています。学生にも参加してもらおうのですが、最近では、たまたま私だけが参加する時など「今日は金城生さん来ないの?」とがっかりされるぐらいになりました。また10月に岐阜大学で行われた「社会調査インターカレッジ発表会」では、どちらかといえばのんびり屋さんが多かった学生たちが、人が変わったようにタフになり、素晴らしい成果を見せてくれました。他大学の学生さんと切磋琢磨することがよい刺激になったのでしょうか。

私が学生たちに望むのは「人間関係を広げ、社会の中での自分の居場所を確立するために今学んでいることを役立ててほしい」ということです。私は多重債務問題の研究をしているの



ゼミ生とインターカレッジ発表会に参加

ですが、債務者の方々の孤独と苦しみは想像を超えるものがあり、まさに死と隣り合わせの状況です。そのような現状を目の当たりにすると、人とのつながりや居場所を持つことの大切さを感じずにはいられません。そのためには共同作業をたくさん経験することが大事だと考えています。ですからゼミでは学生たちが自由に発言できる雰囲気作りを意識します。試行錯誤を通じて互いの良さを認め、弱さをカバーできるようになれば、どこに行っても自分の居場所を見つけられると思うからです。

最近は就職活動を前に、不安からか萎縮してしまっている学生がいます。そんな学生たちに私は「人間関係を深く学ぶことは就職活動の助けにもなるから大丈夫」と話しています。人間は居場所さえあれば、たいいていのは乗り越えられるのではないのでしょうか。学生たちには失敗を恐れず、さまざまな経験を重ねて人間関係を広げてほしいですね。そのための機会を提供することが、私の役割だと思っています。

大山先生はどんな人!?



人間味豊かな大山先生。心理学科の4年生の皆さんに先生について伺ったところ「自由に発言させてくれる」「“あなたなら大丈夫”といつも自信を持たせてくれる」など、まるでお姉さんのように慕われている様子が伝わってきました。また「洋服をどこで買っているのかわりたい」と、個性的なファッションへの関心も高く、学生との仲の良さがうかがえました。